

2024 年度より、教育ソフトウェア社のシステムを利用した学生による授業評価を実施した。前期科目は、全 85 科目中通年科目を除外すると 52 科目だったが、授業評価期間に終了しない科目が 1 科目あり、対象は 51 科目で授業評価を実施した。

授業評価項目は計 11 項目で構成した。1. 授業については、講義の方法や内容について問う項目 5 つで構成されている。2. 授業に対する自身の取り組みについては、科目の目的目標を理解し、主体的に学習に取り組めたかについて問う項目 5 つで構成されている。更に、3.科目を受講し向上した・影響を受けたディプロマポリシー（DP）について、DP1 から DP8 までの項目に複数回答してもらった。回答項目は、「1：まったくそう思わない」、「2：あまりそう思わない」、「3：どちらとも思わない」、「4：ある程度そう思う」、「5：非常にそう思う」の 5 段階で評価した。加えて、10 項目の回答理由に対する自由記載、教員からのハラスメントなどに関する時候や、改善・要望・意見についての自由記載の項目を設けた。

I. 授業評価実施状況

教育ソフトウェアのシステムを使用した授業評価は、6 月 6 日から 7 月 31 日を回答期間として実施した。本年度より授業評価の方法が変更となったため、全学年、対面もしくは zoom 講義の際に、委員会教員が説明を行った。教員へは授業評価回答率を上げるために講義内で授業評価時間を確保するよう依頼した。また、クラス委員と協働し、授業評価回答率を向上させるため、途中の学年別回答率を共有しながら、登校時に時間を取って回答してもらった。更に、担当教員より、7 月に入り 1-2 回のリマインドをメールで送信した。7 月 31 日には 23 時 59 分までの入力を依頼するメールを学年メーリングおよび e-learning メッセージより配信した。

結果、51 科目の授業評価の実施率は全体で **67.5% (2023 年度 34.8%)** だった。実施率 30%以下は 4 科目（薬理学、微生物学、免疫学、疾病治療学Ⅲ）、40%以下は 5 科目（社会福祉学、病理学、疾病治療学Ⅱ、臨床心理学、地域看護方法論Ⅰ）だった。学年別の内訳は、1 年生 18 科目で 87.8% (2023 年度 50.5%)、2 年生 17 科目で 46.9% (2023 年度 22.0%)、3 年生 14 科目で 67.1% (2023 年度 27.4%)、4 年生 2 科目で 61.7% (2023 年度 39.3%) だった。科目区分別では、教養教育科目 22 科目で 62.2% (2023 年度 27.8%)、看護専門科目 29 科目 71.0% (2023 年度 39.3%) だった。

今回、前期開講科目の 4 年生の公衆衛生看護管理論が授業評価実施期間内に講義が終了しなかったため、授業評価対象科目として後期に移動した。一部の学生が回答済みであり、業者より納品されたデータと一部不一致がある。

II. 評価結果

A. 全体（3 つの大項目）＊平均値の標記=MEAN±SD で表した

全 10 項目の平均値は 4.48 ± 0.70 だった（参考：2023 年度 4 段階評価での回答平均 3.70 ± 0.58 ）。I.授業についての 5 項目（1-5） 4.47 ± 0.71 、II.授業に対する自身の取り組みについての 5 項目（6-10） 4.49 ± 0.66 だった。

調査項目別 I.授業についての 5 項の平均値は、1.授業で用いる資料の適切性 4.48 ± 0.7 、2.目標到達に適切な内容・説明 4.5 ± 0.68 、3. 目標到達に適切な課題 4.47 ± 0.71 、4.理解を確認しながらの展開 4.4 ± 0.77 、5.シラバスに沿った授業展開 4.51 ± 0.67 だった。II.授業に対する自身の取り組みの 5 項の平均値は、6.シラバスの内容を理解の上の受講 4.48 ± 0.65 、7.目的目標のために興味関心寄せた参加 4.5 ± 0.68 、8.主体的な学修姿勢 4.48 ± 0.68 、9.新しい知識や思考判断の習得 4.55 ± 0.64 、10.目的目標（DP）の達成 4.45 ± 0.65 だった。

科目を受講し向上した（影響を受けた）DP についての回答は全回答数 1,693 件あった。そのうち、DP1 主体的能力 1,249 件（全回答のうち 73.8%）、DP2 課題解決能力 1,064 件（62.8%）、DP3 パートナシップ 470 件

(27.8%), DP4 地域医療連携能力 328 件 (19.4%), DP5 倫理的姿勢 567 件 (33.5%), DP 6 教養に裏付けられた品格を備えた態度 318 件 (18.8%), DP7 メンバーシップ・リーダーシップ 365 件 (21.6%), DP 8 国際的視野 115 件 (6.8%) だった。

B. 学年別の大項目、小項目の平均値 (表 1, 図 1)

学年別の大項目では、授業評価 10 項目の平均、I 授業について、II 自身の取り組みについて、平均値より低かったのは 3 年生のみだった。小項目では、10 項目すべてで 4.5 前後の回答で、著しく高低が抽出される項目はなかった。

表 1 学年別大項目小項目の平均と標準偏差

		I. 授業について					II. 自身の取組について					全体平均	1-5 平均	6-10 平均
		1.授業の教科書、資料(引用参考文献、視聴覚教材他)、ICTの活用は適切だった	2.授業の内容や教員の説明は、到達目標を達成するために適切だった	3.授業で提示された課題は、到達目標を達成するために適切だった	4.教員は、学生の理解を確認しながら授業を進めていた	5.教員は、シラバスに沿った授業を進めていた	6.私は、到達目標や授業方法・評価方法・学習上の注意を理解して受講できた	7.私は、科目の目的目標を達成するために、興味・関心をもって講義に参加できた	8.私は、科目における修学上の課題について主体的、効果的に学習できた	9.私は、科目を通して、新しい知識や思考・判断を得ることができた	10.私は、科目を受講して、学修目的と目標とDPを達成することができた			
全体	MEAN	4.48	4.50	4.47	4.40	4.51	4.48	4.50	4.48	4.55	4.45	4.48	4.47	4.49
	SD	0.70	0.68	0.71	0.77	0.67	0.65	0.68	0.68	0.64	0.65	0.68	0.71	0.66
1年	MEAN	4.53	4.58	4.56	4.49	4.59	4.49	4.56	4.53	4.63	4.47	4.54	4.55	4.53
	SD	0.69	0.58	0.61	0.68	0.56	0.59	0.56	0.57	0.55	0.58	0.60	0.62	0.57
2年	MEAN	4.66	4.66	4.62	4.54	4.64	4.65	4.67	4.67	4.68	4.61	4.64	4.63	4.65
	SD	0.64	0.63	0.65	0.74	0.68	0.60	0.58	0.59	0.60	0.59	0.63	0.67	0.59
3年	MEAN	4.26	4.22	4.20	4.12	4.26	4.29	4.25	4.24	4.33	4.27	4.24	4.21	4.28
	SD	0.72	0.77	0.82	0.87	0.74	0.74	0.82	0.83	0.73	0.75	0.78	0.78	0.77
4年	MEAN	4.56	4.67	4.60	4.56	4.67	4.67	4.72	4.65	4.70	4.67	4.65	4.61	4.68
	SD	0.56	0.51	0.59	0.59	0.51	0.51	0.52	0.51	0.49	0.51	0.53	0.55	0.51

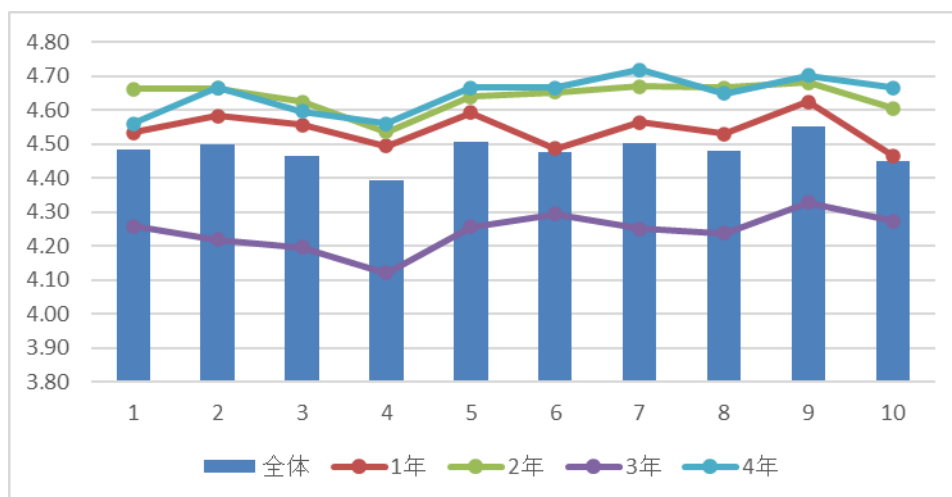


図 1 学年別小項目平均

C. 科目区分別大項目平均値 (表 2)

教養基礎科目と看護専門科目の大項目では、授業評価 10 項目の平均、I 授業について、II 自身の取り組みについて、平均値より低かったのは看護専門科目だった。小項目では、10 項目すべてで 4.5 前後の回答だったが、10 項目の中で低値の傾向にある 4.学生の理解度を確認しながらの授業進行に関する設問が看護専門科目において低い傾向 (全体 4.40, 看護専門科目 4.35) だった。

表 2 科目区分別大項目小項目の平均と標準偏差

		I. 授業について					II. 自身の取組について					全体平均	1-5 平均	6-10 平均
		1.授業の教科書、資料(引用参考文献、視聴覚教材他)、ICTの活用は適切だった	2.授業の内容や教員の説明は、到達目標を達成するために適切だった	3.授業で提示された課題は、到達目標を達成するために適切だった	4.教員は、学生の理解を確認しながら授業を進めていた	5.教員は、シラバスに沿った授業を進めていた	6.私は、到達目標や授業方法・評価方法・学習上の注意を理解して受講できた	7.私は、科目の目的目標を達成するために、興味・関心をもって講義に参加できた	8.私は、科目における修学上の課題について主体的、効果的に学習できた	9.私は、科目を通して、新しい知識や思考・判断を得ることができた	10.私は、科目を受講して、学修目的と目標とDPを達成することができた			
全体	MEAN	4.48	4.50	4.47	4.40	4.51	4.48	4.50	4.48	4.55	4.45	4.48	4.47	4.49
	SD	0.70	0.68	0.71	0.77	0.67	0.65	0.68	0.68	0.64	0.65	0.68	0.71	0.66
教養基礎科目	MEAN	4.52	4.59	4.57	4.48	4.58	4.52	4.58	4.56	4.62	4.49	4.55	4.55	4.55
	SD	0.75	0.65	0.64	0.76	0.66	0.63	0.61	0.61	0.61	0.60	0.65	0.69	0.61
看護専門科目	MEAN	4.46	4.44	4.41	4.35	4.47	4.45	4.46	4.44	4.52	4.43	4.44	4.43	4.46
	SD	0.67	0.69	0.74	0.77	0.67	0.66	0.71	0.71	0.65	0.67	0.70	0.71	0.68

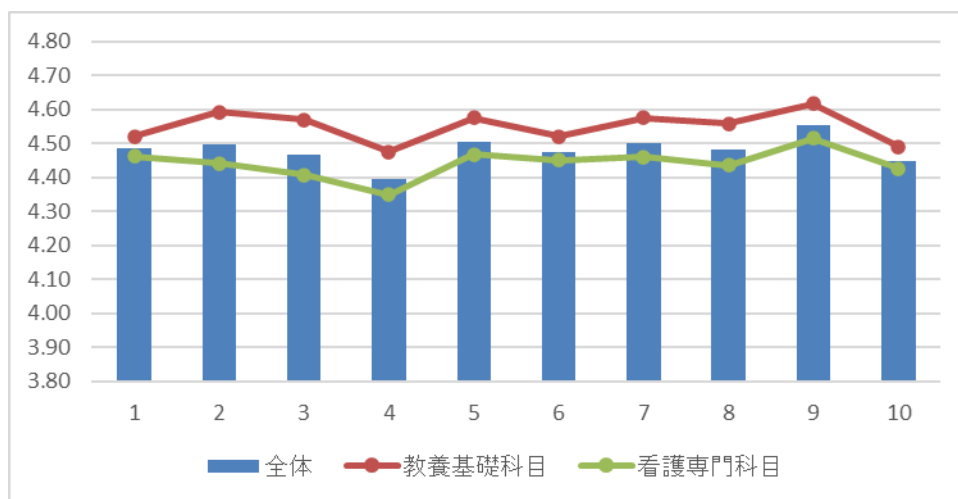


図2 科目区分別小項目平均

D. 科目を受講し向上した・影響を受けた DP (ディプロマポリシー) について (表3, 図3)

本年度より設けた項目で、科目シラバスの目的および目標に掲載された、科目ごとに設定された涵養 DP を踏まえ展開された講義を受講し、8つの学修成果の目標に関連した能力を身につけられたと感じたか、10項目の授業評価を振り返り、評価をしてもらった。学生は複数回答をしているため、回答件数とも異なるため、回答総数を算出した。その結果は図3と表3に示した。学年が上がるごとに、涵養されたと回答する DP の数が増加する傾向にあった。

表2 科目を受講して向上した (影響を受けた) DP (複数回答)

	全体	1年	2年	3年	4年
DP1 主体的学修能力	1249	530	300	378	41
DP2 課題解決能力	1064	420	236	366	42
DP3 パートナシップ	470	157	117	171	25
DP4 地域医療連携能力	328	115	57	144	12
DP5 倫理的姿勢	567	229	144	156	38
DP6 品格を備えた態度	318	144	72	83	19
DP7 メンバーシップ・リーダーシップ	365	101	83	152	29
DP8 国際的視野	115	55	46	12	2
回答総数	4476	1751	1055	1462	208
1人の回答数	2.64	2.48	2.49	2.89	3.65

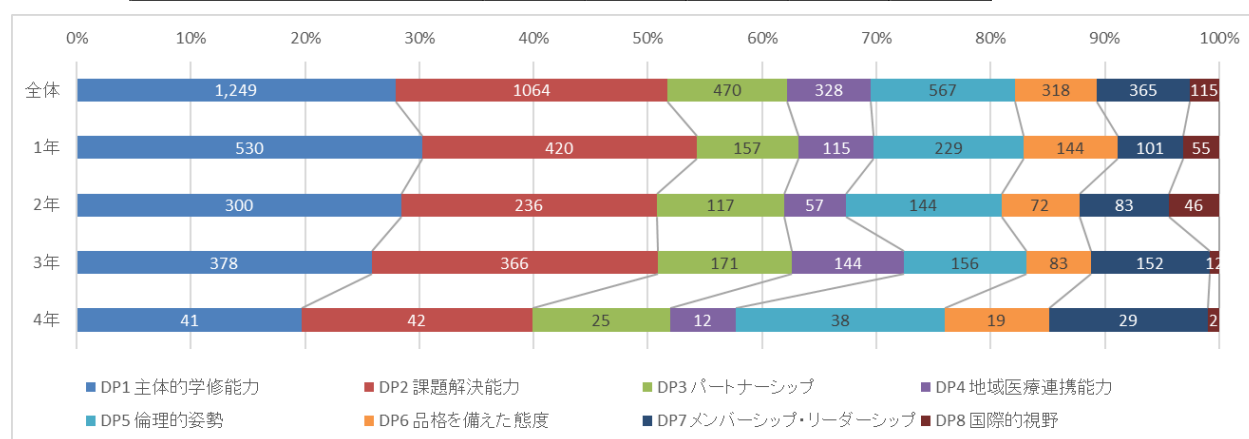


図3 科目を受講して向上した (影響を受けた) DP (複数回答, 実数の割合)

E. 教員による講評と授業改善計画

授業評価を実施した 51 科目全ての科目責任者からの講評と改善計画に関する回答を得ることができた。科目責任者へは、9 月中に授業評価結果の閲覧方法と入力依頼をおこない、入力の期日を 10 月 15 日として連絡した。

講評については、大項目平均値の高値、低値の項目、小項目平均値が低迷している項目、低評価回答者の存在、小項目平均値が高値の項目について、また関連する自由記載内容を踏まえて、丁寧に振り返っていただき、その原因を科目の中で分析し、Google フォームからご回答いただいた。授業改善の提案は、評価が低い小項目や評価が高い小項目に対して、自由記載内容を踏まえて、次年度講義の改善点について具体的にご回答いただいた。

自由記載欄の2項目より、ハラスメントをはじめとする教員からの学生への対応については、問題事象に関連する回答はなかった。科目責任者から丁寧な回答を頂く中で、DP8涵養課目以外でも国際的視野の寛容に向けた授業改善の工夫（家族社会学）や、学生からのポジティブな評価においても次年度以降のさらなる授業改善につなげる意向と考えられる回答を得ることができていた。看護学科の授業評価が定着してきた評価ともいえる。

F. 考察

授業評価は、より良い授業と教育環境の実現を目指し、全科目で学生による授業評価を実施している。科目責任者および担当教員へは、看護学教育における自己点検・評価のPDCAサイクルに必要な資料として位置づけられていることを説明し、授業評価の内容を精読いただき、授業評価結果に対する授業の講評と、改善計画について回答をいただいた。

本年度より、授業評価方法が外部委託に変更され、授業評価科目を受講する履修学生一覧、履修学生に付与するIDとPWの設定など、新しい方法での運用に委員一同四苦八苦の状況であった。また、科目責任者への結果配信と講評・改善計画に関わる回答方法についても、e-learningを介さない方法で運用を確立した。

その結果、学生からの授業評価回答率は65%以上を超え、委託業者からは他学より大幅に「高い回答率」であるということだった。さらに、これまで科目責任者に授業評価結果の配信と講評・改善計画の入力のために割り付けた特別なID・PWを使用したe-learningの回答より、遅延した3科目を除き、期日内にスムーズに回答を頂くことができた。授業評価方法の運用として、学生にとっては回答項目が大幅に削減された（昨年度は20項目+自由記載2項目、本年度は10項目+DP+自由記載2項目）ことで授業時間内にも回答しやすくなり、科目責任者にとってより簡便な方法で有益な評価を行うツールとして評価できた。

授業評価結果としては、回答10項目5段階評価で、4.40から4.55と高い評価を得ることができていた。自由記載では学生の主観で感じたこと考えたことが記載されていたが、ハラスメントととらえる事象は確認できなかった。授業改善に向けた有益で具体的な提案なども記載されており、科目責任者からの講評・改善計画でも自由記載の内容が引用された形で、具体的な講評・改善計画案が提示されていた。学年毎では、再三の回答依頼にもかかわらず、2年生による回答平均値が例年と同様に低かった。毎年の傾向であり要因を十分に分析することは難しいが、演習科目が多く授業評価実施のための時間を十分に確保できなかった可能性があり、次年度以降の傾向も注視していく必要がある。

III. 総括

2024年度前期科目の授業評価から新規授業評価システムが導入され運用を開始した。E-learningを介した授業評価と比べて学生による授業評価回答率、科目責任者による結果閲覧に基づく講評・改善計画の回答率も格段に向上した。授業評価システム運用確立に向け、委員会内での計画的運用と作業効率化を図り、業者へ納品するデータの作成は2月3月から学事課の協力を得て、進めていく。加えて、授業評価回答率の向上に向けては、システムの導入以外にも、科目担当教員による授業内回答時間の確保に加え、学年のクラス委員へのFDSD委員からのリマインドも不可欠である。科目責任者への周知とクラス委員を介した授業評価回答のリマインドを継続して徹底していく。

2024 年度より、教育ソフトウェア社のシステムを利用した学生による授業評価を実施した。後期授業評価科目は 41 科目中 40 科目（「物理学実験」は選択者 0 名により実施せず）、共通科目 15 科目、9 月以降に終了した前期科目 1 科目、計 56 科目で実施した。2 月 27 日以降に終了した「Global Nursing Practice I」は、全体の集計分析作業から除外し、別途科目集計を行った。2024 年度内に科目責任者へ授業評価結果を送付し、3 月 19 日から 4 月 14 日までの期間で講評と改善計画を収集した。

授業評価項目は計 11 項目と 2 項の自由記載で構成されていた。1.授業については、講義の方法や内容について問う 5 項目、2.授業に対する自身の取り組みについては、科目の目的目標を理解し、主体的に学習に取り組めたかについて問う 5 項目で構成した。3.科目を受講し向上した・影響を受けたディプロマポリシー（DP）を回答してもらった。1.と 2.の問い 10 項目は、「1：まったくそう思わない」、「2：あまりそう思わない」、「3：どちらとも思わない」、「4：ある程度そう思う」、「5：非常にそう思う」の 5 段階で評価した。加えて、10 項目の回答理由に対する自由記載、教員からのハラスメントなどに関する事項や、改善・要望・意見についての自由記載の項目を設けた。

I. 授業評価実施状況

教育ソフトウェアのシステムを使用した授業評価は、11 月 13 日から 2 月 27 日を回答期間として実施した。教員へは授業評価回答率を上げるために講義内で授業評価時間を確保するよう依頼した。授業評価回答率を向上させるため、また、クラス委員から学年毎に働きかけ、委員から学年メーリングで授業評価 URL を配信し回答を促した。業者からは、学生個人の回答率が 100%に満たない学生をピックアップし、2 月 2 日、2 月 26 日にリマインドメールが発信された。

結果、56 科目の授業評価の実施率は全体で **60.4%（2023 年度 24.0%）** だった。実施率 30%以下は 2 科目（外国語 2 中国語、在宅家族看護論でどちらも選択科目）、40%以下は 7 科目（医療英会話、外国語 2 英語Ⅱ、保険統計学、公衆衛生学、家族看護論、慢性期看護論、精神看護方法論）だった。学年別の内訳は、1 年生 20 科目で 71.5%（前年度 28.3%）、2 年生 22 科目で 46.5%（前年度 20.8%）、3 年生 1 科目で 50%（前年度 3.3%）、4 年生 14 科目で 70.2%（前年度 19.3%）だった。科目区分別では、教養教育科目 18 科目で 59%、看護専門科目 38 科目 60.3%だった。

今回、前期開講科目の 4 年生の公衆衛生看護管理論が 9 月までの開講だったため後期集計とし、Global Nursing Practice I は授業終了時期が集計期日を超えているため、集計分析表には含まない（業者の集計結果表データと一部不一致がある）。

II. 評価結果

A. 全体（3 つの大項目）＊平均値の標記=MEAN±SD で表した

全 10 項目の平均値は 4.53 ± 0.67 だった（参考：2023 年度 4 段階評価での回答平均 3.54 ± 0.68 ）。I.授業についての 5 項目（1-5） 4.53 ± 0.69 、II.授業に対する自身の取り組みについての 5 項目（6-10） 4.53 ± 0.65 だった。

調査項目別 I.授業についての 5 項は、1.授業で用いる資料の適切性 4.54 ± 0.69 、2.目標到達に適切な内容・説明 4.53 ± 0.68 、3. 目標到達に適切な課題 4.52 ± 0.7 、4.理解を確認しながらの展開 4.5 ± 0.73 、5.シラバスに沿った授業展開 4.57 ± 0.64 だった。II.授業に対する自身の取り組みの 5 項は、6.シラバスの内容を理解の上の受講 4.53 ± 0.65 、7.目的目標のために興味関心寄せた参加 4.52 ± 0.68 、8.主体的な学修姿勢 4.51 ± 0.66 、9.新しい知識や思考判断の習得 4.58 ± 0.64 、10.目的目標（DP）の達成 4.5 ± 0.64 だった。

科目を受講し向上した（影響を受けた）DP についての回答は全回答数 4,078 件（1 年 1,966 件、2 年 1,340 件、

3 年 80 件、4 年 692 件、前期は合計 4,476 件) あった。そのうち、DP1 主体的能力 1,026 件 (全回答のうち 69.7%、前期は 1,249 件 73.8%)、DP2 課題解決能力 940 件 (63.9%、前期は 1,064 件 62.8%)、DP3 パートナリーシップ 478 件 (32.5%、前期は 470 件 27.8%)、DP4 地域医療連携能力 328 件 (22.6%、前期は 328 件 19.4%)、DP5 倫理的姿勢 505 件 (34.3%、前期は 567 件 33.5%)、DP6 教養に裏付けられた品格を備えた態度 339 件 (23.0%、前期は 318 件 18.8%)、DP7 メンバーシップ・リーダーシップ 348 件 (23.6%、前期は 365 件 21.6%)、DP8 国際的視野 109 件 (7.4%、前期は 115 件 6.8%) だった。前期より回答数は減少していた。

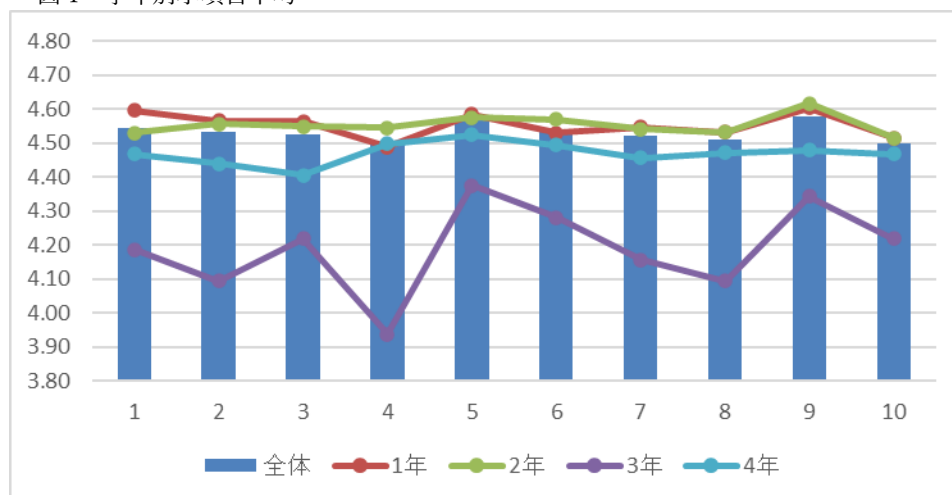
B. 学年別の大項目、小項目の平均値 (表 1, 図 1)

学年別の大項目では、授業評価 10 項目の平均、I 授業について、II 自身の取り組みについて、全体平均値より高かったのは 1 年生と 2 年生だった。小項目では、1 年生 2 年生 4 年生は 10 項目すべてで 4.5 前後の回答で、著しく高低値となる項目はなかった。3 年生は、回答率が低かったが、10 項目すべてで 4.0 前後の値だった。特に、項目 4. 学生の理解度を確認しながらの授業進行に関する設問が 3.94 と低かった。

表 1 学年別大項目小項目の平均と標準偏差

		I. 授業について					II. 自身の取組について					全体平均	1-5 平均	6-10 平均
		1. 授業の教科書、資料(引用参考文献、視聴覚教材他)、ICTの活用は適切だった	2. 授業の内容や教員の説明は、到達目標を達成するために適切だった	3. 授業で提示された課題は、到達目標を達成するために適切だった	4. 教員は、学生の理解を確認しながら授業を進めていた	5. 教員は、シラバスに沿った授業を進めていた	6. 私は、到達目標や授業方法・評価方法・学習上の注意を理解して受講できた	7. 私は、科目の目的目標を達成するために、興味・関心をもって講義に参加できた	8. 私は、科目における修学上の課題について主体的、効果的に学習できた	9. 私は、科目を通して、新しい知識や思考・判断を得ることができた	10. 私は、科目を受講して、学修目的と目標と DP を達成することができた			
全体	MEAN	4.54	4.53	4.52	4.50	4.57	4.53	4.52	4.51	4.58	4.50	4.53	4.53	4.53
	SD	0.69	0.68	0.70	0.73	0.64	0.65	0.68	0.66	0.64	0.64	0.67	0.69	0.65
1 年	MEAN	4.60	4.57	4.56	4.49	4.59	4.53	4.55	4.53	4.60	4.52	4.55	4.56	4.55
	SD	0.57	0.59	0.60	0.70	0.58	0.59	0.61	0.57	0.55	0.56	0.59	0.61	0.58
2 年	MEAN	4.53	4.56	4.55	4.55	4.58	4.57	4.54	4.53	4.62	4.52	4.55	4.55	4.56
	SD	0.81	0.73	0.75	0.72	0.70	0.68	0.72	0.69	0.65	0.68	0.71	0.74	0.68
3 年	MEAN	4.19	4.09	4.22	3.94	4.38	4.28	4.16	4.09	4.34	4.22	4.19	4.16	4.22
	SD	0.53	0.80	0.74	1.09	0.60	0.80	0.79	0.98	0.77	0.74	0.78	0.75	0.82
4 年	MEAN	4.47	4.44	4.41	4.50	4.52	4.49	4.46	4.47	4.48	4.47	4.47	4.47	4.47
	SD	0.74	0.77	0.82	0.73	0.66	0.73	0.75	0.75	0.78	0.75	0.75	0.74	0.75

図 1 学年別小項目平均



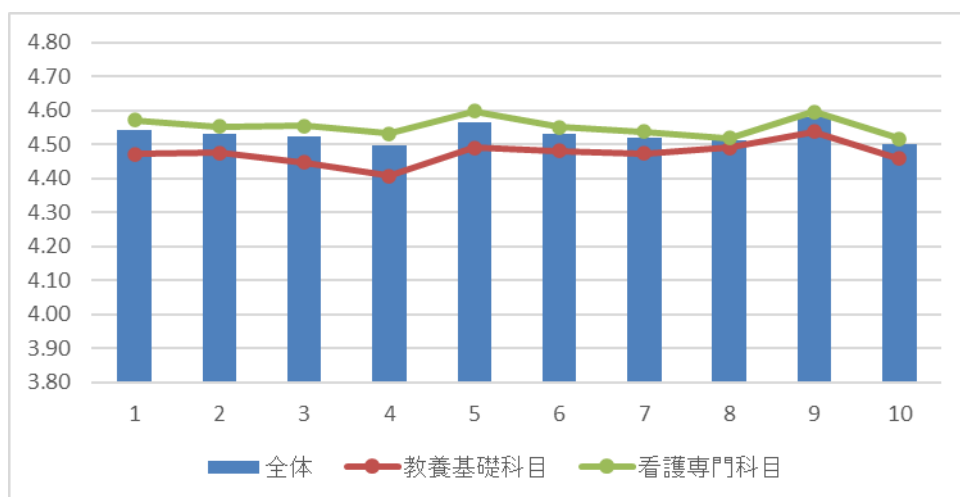
C. 科目区分別大項目平均値 (表 2, 図 2)

教養基礎科目と看護専門科目の大項目では、授業評価 10 項目の平均、I 授業について、II 自身の取り組みについて、教養基礎科目に比べ、看護専門科目で高い傾向にあった。小項目では、10 項目すべてで 4.5 前後の回答だった。

表 2 科目区分別大項目小項目の平均と標準偏差

		I. 授業について					II. 自身の取組について					全体平均	1-5 平均	6-10 平均
		1. 授業の教科書、資料(引用参考文献、視聴覚教材他)、ICTの活用は適切だった	2. 授業の内容や教員の説明は、到達目標を達成するために適切だった	3. 授業で提示された課題は、到達目標を達成するために適切だった	4. 教員は、学生の理解を確認しながら授業を進めていた	5. 教員は、シラバスに沿った授業を進めていた	6. 私は、到達目標や授業方法・評価方法・学習上の注意を理解して受講できた	7. 私は、科目の目的目標を達成するために、興味・関心をもって講義に参加できた	8. 私は、科目における修学上の課題について主体的、効果的に学習できた	9. 私は、科目を通して、新しい知識や思考・判断を得ることができた	10. 私は、科目を受講して、学修目的と目標と DP を達成することができた			
全体	MEAN	4.54	4.53	4.52	4.50	4.57	4.53	4.52	4.51	4.58	4.50	4.53	4.53	4.53
	SD	0.69	0.68	0.70	0.73	0.64	0.65	0.68	0.66	0.64	0.64	0.67	0.69	0.65
教養基礎科目	MEAN	4.47	4.48	4.45	4.41	4.49	4.48	4.47	4.49	4.54	4.46	4.47	4.46	4.49
	SD	0.71	0.68	0.70	0.75	0.66	0.65	0.69	0.65	0.62	0.62	0.67	0.70	0.65
看護専門科目	MEAN	4.57	4.55	4.55	4.53	4.60	4.55	4.54	4.52	4.60	4.52	4.55	4.56	4.54
	SD	0.68	0.68	0.70	0.71	0.62	0.65	0.67	0.66	0.64	0.65	0.67	0.68	0.66

図2 科目区分別小項目平均



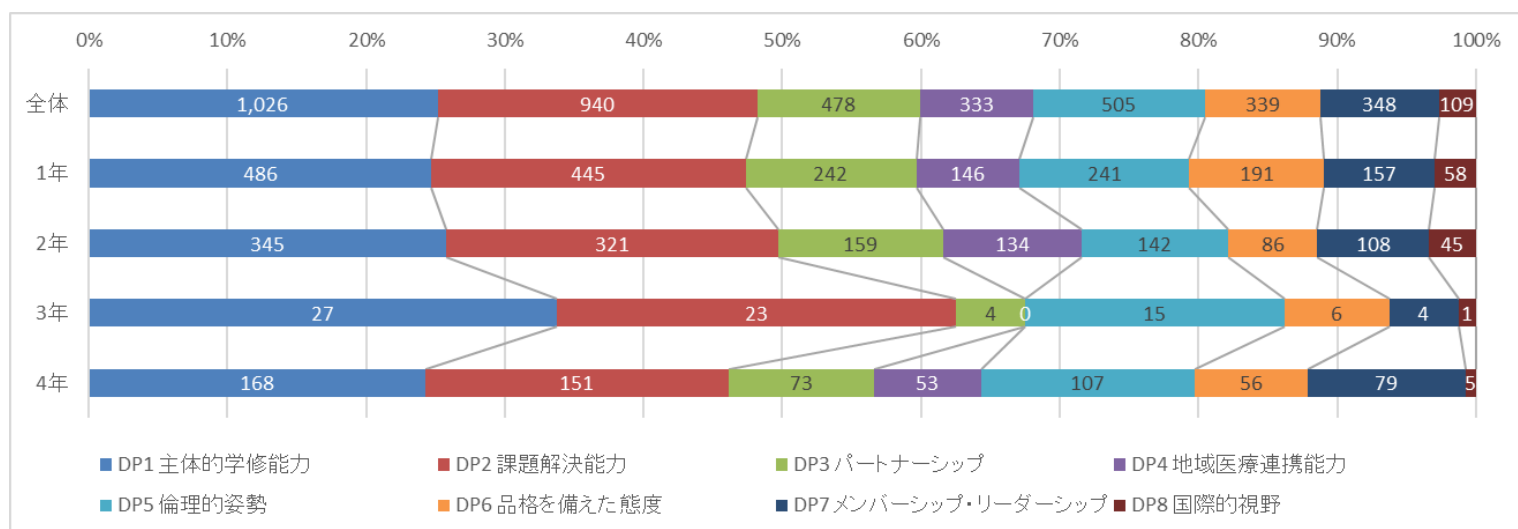
D. 科目を受講し向上した・影響を受けた DP (ディプロマポリシー) について (表3, 図3)

本年度より設けた項目で、科目シラバスの目的および目標に掲載された、科目ごとに設定された涵養 DP を踏まえ展開された講義を受講し、8つの学修成果の目標に関連した能力を身につけられたと感じたか、10項目の授業評価を振り返り、評価をしてもらった。学生は複数回答をしているため、回答件数とも異なるため、回答総数を算出した。その結果は図3と表3に示した。学年が上がるごとに、涵養されたと回答する DP の数が増加する傾向にあった。

表3 科目を受講して向上した (影響を受けた) DP (複数回答)

	全体	1年	2年	3年	4年
DP1 主体的学修能力	1026	486	345	27	168
DP2 課題解決能力	940	445	321	23	151
DP3 パートナースhip	478	242	159	4	73
DP4 地域医療連携能力	333	146	134	0	53
DP5 倫理的姿勢	505	241	142	15	107
DP6 品格を備えた態度	339	191	86	6	56
DP7 メンバーシップ・リーダーシップ	348	157	108	4	79
DP8 国際的視野	109	58	45	1	5
回答総数	4078	1966	1340	80	692
1人の回答数	2.41	2.78	3.17	0.16	12.14

図3 科目を受講して向上した (影響を受けた) DP (複数回答, 実数の割合)



E. 教員による講評と授業改善計画

授業評価を実施した 56 科目のうち 53 科目の科目責任者からの講評と改善計画に関する回答を得ることができた (回答率 94.6%)。科目責任者へは、11 月中に授業評価結果の閲覧方法と入力依頼をおこない、入力の回答

期日を4月14日とした。この時点で36科目の回答であった（回収率64.3%）であったため、回答期日を4月21日まで延長し、回答率の増加につながった。

講評については、大項目平均値の高値、低値の項目、小項目平均値が低迷している項目、低評価回答者の存在、小項目平均値が高値の項目について、また関連する自由記載内容を踏まえて、振り返っていただき、その原因を科目の中で分析し、Google フォームからご回答いただいた。授業改善の提案は、評価が低い小項目や評価が高い小項目に対して、自由記載内容を踏まえて、次年度講義の改善点について具体的にご回答いただいた。

自由記載欄の2項目より、ハラスメントに関連する学生からの不快と感じた事象や、教員間の不統一な評価に対するコメントに対して、科目責任者から丁寧な対応策の回答があった。全体的に学生からのポジティブな評価においても次年度以降のさらなる授業改善につなげる意向と考えられる回答を得ることができていた。看護学科の授業評価が定着してきた評価ともいえる。

F. 考察

授業評価は、より良い授業と教育環境の実現を目指し、全科目で学生による授業評価を実施している。科目責任者および担当教員へは、看護学教育における自己点検・評価のPDCAサイクルに必要不可欠な資料として位置づけられていることを説明し、授業評価の内容を精読いただき、授業評価結果に対する授業の講評と、改善計画について回答をいただいた。また、授業評価システムを大幅に変更した前期実施の課題について、学事課と協働し回収率の向上、教員からの講評改善計画のスムーズな回収に努めた。

その結果、学生からの授業評価回答率は60.2%と前期の回答率に比べて低値だったが、前期に引き続き、委託業者からは教員・学生ともに積極的な授業評価への参画をしたうえで「高い回答率」である、ということだった。学年毎では、再三の回答依頼にもかかわらず、2年生と3年生の回答平均値が例年と同様に低かった。要因は選択科目で受講者が少ない科目で授業評価回答率が低迷していることや、演習科目で授業評価回答時間を確保できなかった可能性がある。次年度以降の傾向も注視していく必要がある。

授業評価結果としては、例年と同様、3年生は回答率、授業評価回答内容ともに低値である傾向は変わらなかったが、5段階で4以上の高い評価を得ることができていた。科目別の自由記載からは学生の主観で感じたこと考えたことが記載されていたが、ハラスメントに関連する学生からの不快と感じた事象や、教員間の不統一な評価に対するコメントが数件あり、教員からの改善計画で、丁寧な回答がされていた。授業資料を紙面で配布するもしくはデータでPDFにして配布するなどの対応について、著作権への配慮の意図を理解していない学生や、自身で対処対応せず要望のみで意見が終わってしまっている回答が散見され、学生の情報リテラシーに合致した説明が必要であると考えられた。

科目責任者からの講評・改善計画は、56科目中53科目（94.6%）の回答があった。学生の授業評価の結果を振り返り、次年度に向けての改善計画が作成されていた。この内容については、次年度のe-ラーニング内で、学生に周知をしていく予定である。

III. 総括

2024年度前期科目の授業評価から新規授業評価システムが導入され運用を開始した。授業評価回答率の向上に向けては、システムの導入以外にも、科目担当教員による授業時間内での回答時間確保に加え、学事課委員からの周知、学年のクラス委員へのFDSD委員からの回答促進、業者からのシステムメールでのリマインドを行い、60%以上の回答率を保持することができた。

次年度に向けて、上記の実施を継続するとともに、さらに新学期のオリエンテーションにおいて、FD・SD委員会からの学生に授業評価に参画することの意義を伝えるチラシを作成すること活用していくこととする。